

③ アミロイドPET検査の説明

福岡徳洲会病院 核医学・PETセンター

アミロイドPET検査とは・・・

アルツハイマー病の原因物質と考えられているアミロイドβプラークが、脳内に蓄積していないかを調べるための検査です。

放射性医薬品「フルテメタモル」2mLを静脈注射します

脳内のアミロイドβに結合する「フルテメタモル(¹⁸F)注射液」という特殊な放射性医薬品(製品名「ビザミル静注」)を注射します。

放射性同位元素「F-18」を用いた医薬品です。

この薬を静脈注射し、しばらく安静にするとアミロイドβに結合します。脳内からの放射線を「PET-CT装置」で受け取り、検査画像を得ることができます。

検査による被ばく線量はとても少ないです

検査の際の被ばく線量は1回あたり約4.8mSvです。

これは1年間に自然界から受ける自然放射線量約2.1mSvの約2倍です。

この値に、線量をととても抑えた減弱補正用のCT撮影による線量が加わります。体に影響が出ることはありませんのでご安心ください。

注射後約6時間ほど経過すると、体内の放射線量は約10分の1になります

「F-18」は放射線量が半分になる時間「半減期」がおよそ110分と

とても短いため、この検査に利用されています。

尿と一緒にどんどん排泄されるため、薬の放射線は急速に無くなっていきます。

小さなお子様などへの配慮

放射線を用いた検査ですので、妊娠中やその可能性がある方は基本的に検査出来ません。

また、安心のためにお子様との来院はお控えください。

抱っこなどの密な接触は12時間ほど控えてあげると良いと思います。

授乳中の方は、授乳を24時間お控えください。

(検査前の搾乳をご検討ください)